

第16回

大阪消防清風会総会開催!

200 名が参加 なごやかに集う

恒例の昭和五十七年度、大阪消防清風会総会が十月四日午後五時から、さわかやかな秋空のもとに都島区綱島町は太閤園のゴールデンホールにおいて、圓井東一大阪市助役、鴻池藤一大阪市連合防火協会の会長をはじめ各米菓の御臨席を得て、多数参加のもと盛大に開催されました。

総会に先立ち出席者全員が消防職員殉職者並びに他界された先輩、同僚各位の御霊に對して黙とうを捧げました。引き続き、圓井会長欠席のため、代りして「本会役員数も年々増加し、事業も順調に進展しております。ご来賓の方々のご支援、ご指導の賜も感謝し、あわせて、ご協力のお陰であります。今後とも会員相互の親睦を深め、本会育成

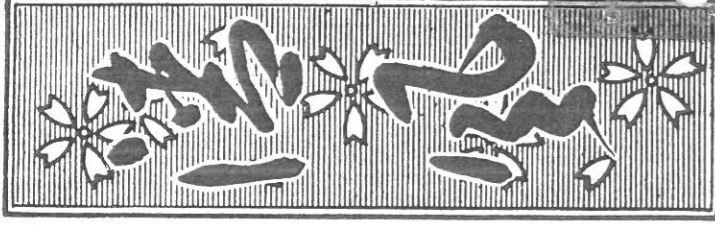
に協力をお願いします。とのあいさつがあり、次に東米菓を代表して、鴻池大阪市連合防火協会会長から「会員皆様には戦後目まぐるしく変遷する社会の中にあつて、警防活動、予防行政に、さざれ今日の大阪消防の基礎を確立された方々である。その業績に對し、深甚なる敬意を表し、地域職場での防火指導者として、今後とも災害のない街づくりにご尽力を賜り、本会の発展とご健康、ご多幸を祈念しております。との祝辞が述べられ、理事に入つた。

まず、会則により議長に圓野副会長を選出し、議案審議に入り、事務局から去る六月二十六日の理事会において、審議された昭和五十六年度事業結果並びに、歳入歳出決算報告が行われ、続いて岩崎理事からも監査結果が報告され承認を得た。また、本年は役員改選の年にあつて、同様に理事会において、満一致で現役員の留任が決定したことを報告、選任されたのち、五十七年度事業計画と予算案について、事務局から報告があり承認され、議事が滞りなく終了した。

最後に、橋本局長から「皆様方にはお元気で多数ご参会いただき、また、会の充実、ご多幸を祈念しております。ご支援に對し心から感謝の意を表し、都市災害の複雑多様化に對し、消防力の増強に努め、時代に適應した消防施策を講じていきたい。また、最近の大阪消防の動きをご紹介しますと、管理担当司令の配置「現在六署」をはじめ、警防面では災害現場に即応できる情報を提供す

[写真説明]

上、ロビーでくわぐわ会員風景
中、総会風景
下、懇親会風景



大阪消防清風会報
(第18号)
発行
大阪消防清風会
大阪府西淀川区新町1丁目28番3号
大阪府西淀川区新町1丁目28番3号
TEL(06)531-0601(代)

博田飯人 発行人
電送システム導入計画、予防面では適マーク交付推進に努め、不特定多数が出入する建物の防火上安全の確保等、使命達成に最善を尽くすことを誓い、今後ともご支援、ご鞭達をお願いします。とのあいさつがあり、第一部総会が終了した。

叙勲の光榮に浴して

黒本勝夫

五十七年度春の叙勲に際し、はからずもその榮譽に浴することになり、五月十四日東京、式典に列し、頭目との並ぶ増上、勲四等瑞宝章を受章者代表として、代表受領致しました。式終了後、引続き、皇居に参内、豊明殿にて、天皇陛下に拝謁、お健やかな玉体を拝し、願とした中に御芳りの玉音に接し、

多くの受章者の中、妻と共に深く感謝致しました。今もその余韻は体に残っています。これまで叙勲は他人のことに思い身近に感じなかつた私にもそれが現実となつて、殊に、破格の榮譽に浴することが出来たことは、一人感慨無量であります。今春受章の消防関係者は

全国で三六四名、大阪府で十一名、大阪市では四名、大阪市の四名は本年特に二名増員されたの四名とのことでありまして、彼是勲案致しますと、斯様に数少ない受章者の中に私共が加えられましたことは、一重に、消防局長殿を始め、関係各位の御配慮御努力と、市府関係皆様御高配によるもので、現職を退いて長い今日、今尚深い御配慮を賜つておりますことは感謝の外、ありません。願ひみますと在職二十二

年は戦前、戦中、戦後に亘る、社会情勢転変の激しい時代、消防施策も改変に次ぐ改変と国内挙げて破乱の時期、重要な消防職を奉じて、凡庸な私が克く勤まつたものと思ひ出しても汁の出る思いの三十年でしたが、幸いにもよき上司、先輩に仕え、懇切な御指導御鞭撻御庇護と同僚各位の御協力に支えられ、今回の受章の光榮に浴することが出来たもので、この喜びを一人私でできないものと深く感謝致しております。

春の叙勲 (昭和五十七年四月二十九日付)

- 勲四等瑞宝章 元大阪市消防正監 黒本勝夫 (71才) 松原市西大塚 一一二一一〇
- 勲五等瑞宝章 元大阪市消防正監 青木永造 (72才) 大阪市住吉区我孫子 一八一二五
- 勲六等瑞宝章 元大阪市消防司令長 濱野國次 (65才) 高槻市南大樋町 九八二四七
- 勲六等瑞宝章 元大阪市消防司令 川畑才一 (70才) 大阪市鶴見区茨田大宮 一一一一三

秋の叙勲 (昭和五十七年十一月三日付)

- 勲七等青色桐葉章 元大阪市消防司令補 乗上長平 (70才) 大阪市東淀川区豊里 三一一六一四
- 勲七等瑞宝章 元大阪市消防司令補 重久照 (70才) 枚方市港南六一〇
- 従五位勲五等双光旭日章 元大阪市消防正監 故松下大郎 (70才) 茨木市春日 一一五一一
- 従七位勲六等瑞宝章 元大阪市消防司令補 故花畑市治郎 (71才) 大阪市東成区大今里南 六一一九九

叙勲に輝く人々

昭和五十七年の生存者叙勲において、次の方々が受章されました。

叙勲によせて

乗上長平

ありがたや古稀に叙勲の重ね餅、私の心境です。叙勲に浴して、私は在職中何をして来たかを振り返つて見て、唯々至らぬことばかり多く誠に申し訳ない気持ちが先に走ります。終始天職と信じて勤めさせて戴いた職での叙勲であり、一際感激も新らたです。生粋の浪華児である私、淀川の水で産湯を浴びて育ち、淀川の水で激力作らも三十二年間、郷土警備の一翼を担い得た幸せ者です。在職中大阪消防誌に投稿した作に、真夜中に遠く聞こゆるサイレンに友安かれと暫し祈りぬ。今夜も又サイレンを耳にしては、友よ安かれよと合掌する一人です。ありがとうございました。皆々様の御健闘を、お祈り申しあげます。

!!出初式の案内!!

- 大阪市消防出初式 一月六日(木) 午前十時、北區松宮公園一帯
- 水上出初 一月十日(月) 午前十時三〇分、安治川第一岸壁一帯

昭和56年度歳入歳出決算書

1. 歳入金 1,846,850円
 1. 歳出金 1,591,230円
 1. 差引残高 255,620円 (翌年度へ繰越)

歳入の部	項目	予算額	収入済額	増△減
1 会費	1 会費	1,206,000	1,247,000	41,000
	1 定額会費	33,500	24,500	△ 9,000
	2 終身会費	270,000	297,000	27,000
	3 過年度会費	2,500	500	△ 2,000
2 雑入金	1 雑入金	900,000	925,000	25,000
	1 雑入金	180,000	177,750	△ 2,250
	1 雑入金	180,000	177,750	△ 2,250
	1 雑入金	100,000	100,000	0
3 補助金	1 補助金	100,000	100,000	0
	1 補助金	100,000	100,000	0
	1 補助金	174,681	262,781	88,100
	1 補助金	174,681	262,781	88,100
4 雑収入	1 雑収入	80,000	80,000	0
	1 雑収入	94,681	182,781	88,100
	1 雑収入	59,319	59,319	0
	1 雑収入	59,319	59,319	0
5 繰越金	1 繰越金	59,319	59,319	0
	1 繰越金	59,319	59,319	0
歳入合計		1,720,000	1,846,850	126,850

歳出の部	項目	予算額	支出済額	不用額
1 会議費	1 会議費	975,000	874,270	100,730
	1 総務費	975,000	874,270	100,730
	1 総務費	900,000	831,030	68,970
	1 総務費	75,000	43,240	31,760
2 事務費	1 必要費	270,000	293,270	23,270
	1 消耗品費	70,000	△ 13,960	83,960
	2 印刷製本費	10,000	26,540	16,540
	3 印刷製本費	50,000	△ 30,500	80,500
3 事業費	1 通信費	200,000	237,230	37,230
	1 通信費	200,000	237,230	37,230
	1 通信費	190,000	190,000	0
	1 通信費	10,000	145,810	135,810
4 積立金	1 積立金	160,000	14,190	145,810
	1 積立金	30,000	44,190	14,190
	1 積立金	225,000	247,500	22,500
	1 積立金	225,000	247,500	22,500
5 子備費	1 積立金	60,000	△ 45,770	105,770
	1 積立金	60,000	△ 45,770	105,770
	1 積立金	60,000	14,230	45,770
	1 積立金	60,000	14,230	45,770
歳出合計		1,720,000	1,591,230	128,770

終身会費積立金	項目	収入	支出	残高
昭和56年度	1 積立金	16,147	899,324	883,177
	1 積立金	247,500	915,471	667,929
昭和57年度	1 積立金	177,750	1,162,971	985,221
差引昭和57年3月末現在高			985,221円	

昭和57年度歳入歳出予算書

1. 歳入金 1,900,000円
 1. 歳出金 1,900,000円
 1. 差引 0円

589

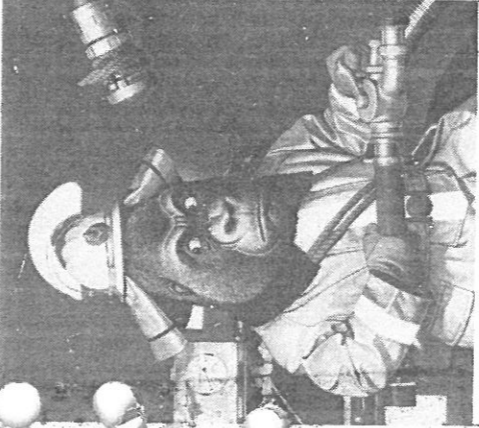
歳入の部	項目	本年度予算額	前年度予算額	前年度に比し増△減
1 会費	1 会費	1,205,500	1,206,000	△ 500
	1 定額会費	30,500	33,500	△ 3,000
	2 終身会費	267,000	270,000	△ 3,000
	3 過年度会費	8,000	2,500	△ 5,500
2 雑入金	1 雑入金	900,000	900,000	0
	1 雑入金	197,250	180,000	17,250
	1 雑入金	197,250	180,000	17,250
	1 雑入金	100,000	100,000	0
3 補助金	1 補助金	100,000	100,000	0
	1 補助金	100,000	100,000	0
	1 補助金	141,630	174,681	△ 33,051
	1 補助金	141,630	174,681	△ 33,051
4 雑収入	1 雑収入	80,000	80,000	0
	1 雑収入	61,630	94,681	△ 33,051
	1 雑収入	255,620	59,319	196,301
	1 雑収入	255,620	59,319	196,301
5 繰越金	1 繰越金	255,620	59,319	196,301
	1 繰越金	255,620	59,319	196,301
歳入合計		1,900,000	1,720,000	180,000

歳出の部	項目	本年度予算額	前年度予算額	前年度に比し増△減
1 会議費	1 会議費	975,000	975,000	0
	1 総務費	900,000	900,000	0
	1 総務費	75,000	75,000	0
	1 総務費	290,000	270,000	20,000
2 事務費	1 必要費	40,000	70,000	△ 30,000
	1 消耗品費	10,000	10,000	0
	2 印刷製本費	10,000	10,000	0
	3 印刷製本費	20,000	50,000	△ 30,000
3 事業費	1 通信費	250,000	200,000	50,000
	1 通信費	250,000	200,000	50,000
	1 通信費	352,500	190,000	162,500
	1 通信費	300,000	160,000	140,000
4 積立金	1 連益費	90,000	90,000	0
	2 積立金	210,000	70,000	140,000
	2 積立金	52,500	30,000	22,500
	2 積立金	52,500	30,000	22,500
5 子備費	1 積立金	222,500	225,000	△ 2,500
	1 積立金	222,500	225,000	△ 2,500
	1 積立金	222,500	225,000	△ 2,500
	1 積立金	60,000	60,000	0
歳出合計		1,900,000	1,720,000	180,000

この予算は項目について彼此流用できるものとする。

昭和57年6月26日

会長 飯田 博



本年度防火ボスター

火災ゼロ一人ひとりの自覚から

大阪市防火標語(期間57年11月26日～58年11月25日)

- 局 長 消防司 監 橋本 成男
- 総務部長 消防正 監 萬代 信雄
- 総務課長 消防正 監 馬越 浩二
- 総務課長代理 消防司令 長 櫻田 正昭
- 企画主幹 消防正 監 太田 信三
- 人事教養課長 消防正 監 山口 真司
- 人事教養課長代理 消防司令 長 松尾 武昭
- 予防部長 消防正 監 荒木 昭三
- 予防査察課長 消防 監 十河 博三
- 予防査察課長代理 消防司令 長 吉田 清治
- 設備課長 消防 監 田中 隆夫
- 危険物課長 消防 監 松田 齊治
- 警防部長 消防正 監 中田 俊之
- 計画課長 消防 監 今西 隆生
- 警備主幹 消防司令 長 山口 隆年
- 司令課長 消防 監 八幡 定作
- 航空隊長 消防 監 瀧本 京彦
- 救急課長 消防 監 川畑 望
- 機械課長 消防 監 金岩 喜代
- 消防学校長 消防正 監 恒遠 滋
- 北消防署長 消防正 監 本田 勝彦
- 都島消防署長 消防 監 山本 大吉
- 福島消防署長 消防司令 長 沖浦 吉彦
- 此花消防署長 消防 監 井谷 稔
- 東消防署長 消防正 監 本國 篤弘
- 西消防署長 消防正 監 林本 美和
- 港消防署長 消防司令 長 西尾 昌彦
- 大正消防署長 消防 監 大岡 積一
- 天王寺消防署長 消防 監 大西 輝和
- 南消防署長 消防正 監 高橋 幹雄
- 西淀川消防署長 消防 監 寺田 清一
- 淀川消防署長 消防 監 吉田 美次
- 東淀川消防署長 消防 監 辰巳 幸義
- 東成消防署長 消防 監 小谷 川一
- 生野消防署長 消防 監 村松 治郎
- 旭消防署長 消防 監 新松 堂
- 城東消防署長 消防 監 榎野 正
- 阿倍野消防署長 消防 監 榎野 正
- 住吉消防署長 消防 監 倉田 幸正
- 住吉消防署長 消防 監 黒川 一夫
- 東住吉消防署長 消防 監 黒川 一夫
- 平野消防署長 消防 監 西山 昭
- 西成消防署長 消防 監 熊野 昭
- 水上消防署長 消防司令 長 橋本 成男

大阪市消防局幹部

かなしき
 次の方々が逝去されましたのでお知らせします。
 ご遺族には本会から哀悼の意を表しました。
 中林孝三氏 昭和56年8月25日死亡
 木地忠一氏 昭和56年10月15日死亡
 山田耕三氏 昭和56年12月3日死亡
 上原平八氏 昭和57年1月12日死亡
 大崎茂雄氏 昭和57年1月14日死亡
 羽木 昭和氏 昭和57年1月18日死亡
 荒木正雄氏 昭和57年2月17日死亡
 宮本安市氏 昭和57年3月25日死亡
 井村芳一氏 昭和57年4月27日死亡
 山口太郎氏 昭和57年7月7日死亡
 近藤美氏 昭和57年8月31日死亡
 山口和夫氏 昭和57年9月4日死亡
 出口幸三氏 昭和57年9月18日死亡
 松下太郎氏 昭和57年10月12日死亡
 岡本長雄氏 昭和57年10月25日死亡
 花畑次郎氏 昭和57年10月26日死亡

健康、長寿、若返り

宮田五郎

今年の四月頃、私と前後して定年を迎えた友人から久しぶりに電話がありました。私より一か月遅く定年となった友人の鷹山さんが第二の職場で倒れ、意識不明のまま病院へ運ばれたという電話でした。私と同年代、現役時代は至極元気でも、いつも一緒に健康ぶらさがり器にぶらさがったりした仲の彼が、僅か一年半ぐらいでこんなになるとは、夢にも思いませんでした。思うに仕事が過労であったのでは？と思いますが、そこまで無理することはなかったのではないかと残念です。彼だけでなく、最近では、誰れが亡くなったかやれ入院などの職場で体調をくづして辞めたなどのこと

をよく耳にするようになる。と、お互い年を取ったなあ、と心細くなることがありまして。確かに十年前と較べて、体力的な劣えは隠すことはできません。とは言っても「昔前の「人生五十年」といわれた時代からみると、私など既に十年も長生きしている勘定になります。然し三十年余り勤めて定年後僅か二年位であの世へはまた行きたくありません。ネ。なんでもして、いつまでも健康で有難い年金を頂きながらこれからの人生を楽しみたいというのが私達の偽りのない本音ではないでしょうか。さきほど厚生省が発表した日本人の平均寿命は、男七十四、五二才、女八十一、

七二才という。私などは、私などそれまでまだ十四、五年あることになり、せめて平均寿命までは人の世話にならずに生き延びたいものです。そのためには自身の健康管理に積極的になければなりません。先日、大阪市老人クラブ連合会から「健康、長寿、若返り」という小冊子を頂きました。「たべものに関する章、心に関する章、体力に関する章、体力づくりに関する章」に分類された小さな本ですが、イラスト入りでわかり易く、日頃健康でも、気がつかない健康づくりが身近になくさんあることに気付きました。自分の健康につながり、若返り、そして長寿を保つためであれば、お互い積極的に取り組んでみたいものです。

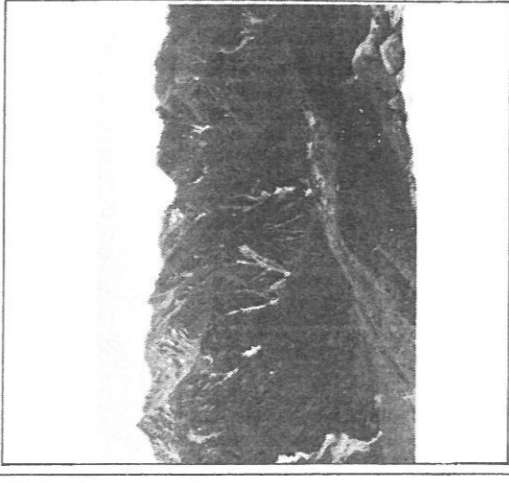
穂高紀行

浜野国次

空模様を気にしながら旅に出た。紅葉を尋ねてである。名神高速から中央自動車道へ。頬をなでる朝風は実に心地よい。沿道の山野は早や秋色に包まれ、低山には低山の、刈田には刈田の風情があつて、心を和ませる。車が車那に近づくと、りから山容はひとしお錦秋の感を深め、造化の妙を見せてくれる。自然は四季を過ぎて己れのリズムをくずさないが、人間は果たして自然の有難さを心から知っているのだろうか。至る所で道路工事に出会う。自然に対する報恩を忘れた人間への警告と知る。標高二、九〇九メートルの西穂高丘の中腹に立つて周囲を見渡す。峻岳、乗鞍、槍、中岳、そして奥穂高の山々が、展望台の観光客を圧倒するかのよう眼前に迫ってくる。その縁べつが黄葉、紅葉の衣裳も鮮やかに、人間どもの心底に食いこむ。昔から紅葉の名所は、大和の龍田川、山城の高尾山というが、眼下に見る飛騨の峰々の錦は、その

比ではない。豪華な錦の緞帳とは、この様を言うのであろう。秋の日本にも、こんな素晴らしい世界があるのかと、初めて接する奥飛騨の景観に驚く。ローアウェイの新穂高温泉駅で摂氏一度と聞かされ、なるほどと感嘆を覚えたが、なせ、こうかは平駅から第二ローアウェイに乗り換えて終点の西穂高駅に着くころから、チラチラと言が舞ってきた。六十名定員いっぱい車内では、さほど寒さを感じなかったものの駅ホームに降りた途端、一回、首をすくめて「おおお寒む」の連発。連発といえは上り下りとも、天下の絶景に思わず口にした「あえええ」の言葉が耳から離れない。飛騨山脈の感音、妙なる紅葉美に我れを忘れての感嘆詞である。前後、酔いつぶれた人も、気のりしない男も、また恋に泣いた女も、しばし浮き世を忘れて大いなる自然の魅力に引かれる。そこには、おそろく俗界に報道される様々の感も消し飛んでいたのであろう。「山は高いから貴いのでは

なく、山には樹があるから、貴いのだ」というコトバを思ひだす。いずれにしても、北アルプス連峰の眺望は雄大である。しかも、山上の空気がうまい。寒さも忘れて大きく深呼吸をする。下界と同じ空気なのだが、なせ、こうも違うのだろうか。改めて、愚かな人間どもの振りまく、公害の恐ろしさを考えさせられる。ベンチに腰をおろした若いカップルが、腕を組みながら立ち去って行く。ベンチに残る二個の空き缶の首をかしげつつ筆者は、その空き缶を拾って孫に捨てさせる。もの十メートルと離れていない所に附籠がそれらの不用品を得ていけるのに、無頓着なのか、健忘症なのか気にかかる。ともあれ、大自然に抱かれた飛騨路をワゴン車は走る。お湯まし、味よし、人情よしと女主人のいう旅節Kの赤い屋根を左に見て山道を下る。五百人が同時に入れるマンモス露天風呂が、この宿の自慢であるが、上弦の月と飛騨の山々を静かに眺めながら湯浴みする



枯葉

四方赤

これはご存知、宮城県民話の「さんざ時雨」。さんざ時雨とは、少々時雨にて、さんざと降る時雨、細雨をいふ（新撰陸奥風土記）とあるが、さんざ、は祝言葉であるとの説もある。まあいずれにしろ枯葉を踏み占め、ひらひら頭上へ舞い落ちる木の葉を眺めて、が理解できない。冬の情趣よりも、どうやら散らばる枯葉の方が、どうも気にならう。

御岳山が、みな秋の装いに溶けて、顔の裏に灼きつく。もちろん、ドライアイで手が打つソバを食べながら聴いた哀愁ただまよう「楓飛騨慕情」のメロディが、下呂あたりから降りだした秋時雨の音とともに未だに耳に残る。それに重なりに浮かんでくる。人は、これを旅情の名残りという。

俳句・短歌

池尾清司
 腕一つ流れゆくなりしくるなか
 紅葉とはなれて雨滴きらめける
 禁煙を誓ひしは今朝願雲
 藪府を焼く火に案山子焼かれけり
 夫婦かも二匹のいとど跳ねいでし

岩井静雄
 てらてらと炎所舞うごと紅葉散る
 反り打つて秋水湛える城の垣
 四海波平らに治む初日光け
 初日の出波に遊ばす夫婦若
 夜の来ても下馬許されぬ菊の武者

井上ひさ子
 ひとり居に水仙白き花灯す
 病むことも一つの区切り落葉焚く
 冬の繩生きている証の静極む

江口武雄
 懐手しておりながら気短し
 青空が降らす木の葉や七五三
 赤き文字いつか消へおり落の墓
 初電話顔見合わせて妻の立つ

江口武雄
 重きにはあらず地を擦り千歳飾
 遍路ゆく芒の道を我もまた
 見得をさる人形菊の衣裳着て
 野仏に菊を供へて老婦去る
 駆けてゆく子らより高し芒揺る
 落葉散る時雨に濡れる舗装路に

大倉久雄
 段段の山家日当る紅椿
 雪国の梅の香りの便り着く
 帯目の砂利踏みきりて福参り

宮田五郎
 咽喉鳴らし鳩の寄りくる冬日和
 木漏れ日は暖かきかな柿熟す
 糞虫や枯葉を盾に冬構う
 アレザアを脱ぐ大阪城の冬日和
 ダムの里落葉と共に霜を焼く

安全を守り・企業を防衛する
 南大阪ガードマン
 ○保安警備 ○常駐警備 ○交通警備
 ○機動警備 ○機送警備 ○ボディーガード

お問い合わせは
 0722-21-4000
 0722-22-0191

株式会社
 南大阪警備保障

社長 北川政行 (清風会員)
 社 市四桑通 7 番 24 号 木村ビル 3 F
 大阪支社 大阪市鶴見区緑 1 丁目 1 番 5 号
 清延ビル 2 階
 TEL (06) 931-1701
 <社員募集>

高級紳士服御誂
 高級既製服は当店へ

飯野洋服店

清風会会員 飯野 円一

大阪市旭区今市二丁目七番四号
 電話 〇六(九五三)一七六三

美術工芸品と記念品
 各種叙勲記念品 卸

株式会社 盛美堂

大阪市西区新町一丁目二十五番一号
 大阪府清防局ウラ
 電話 〇六(五三二)九四九一(代)

